

出穂は平年より早まる見込み！出穂までは「飽水管理」や「間断かん水」で根の活力維持し、出穂時期は必ず湛水！

斑点米カメムシ類多い！斑点米カメムシ類防除を徹底しましょう。
今後の水管理の重要ポイント！

- 出穂までは「飽水管理（足跡や作溝に水が残る程度の水管理）」や「間断かん水（2日湛水・2日落水）」で根の活力を維持する。出穂～穂揃期頃は最も水分を必要とする時期のため、湛水状態を保ち（花水）、水を切らさない。
- 穂揃期以降は、水のためっぱなしは厳禁です。再び「飽水管理」や「間断かん水」を実施し、水田の水温地温を下げる水管理を実施し、根の活力を維持する。

1か月予報（7月17日 気象庁発表）

気温：7/19～7/25：高い見込み
7/26～8/1：高い見込み
8/2～8/15：高い見込み
降水量：平年並みの見込み
日照時間：多い見込み

斑点米カメムシ類の発生：多い！

- 高温年は登熟後半の発生量の増加に注意が必要です。
- 斑点米カメムシ類の基本防除は、「穂揃期」と「穂揃期の7～10日後」の2回です。適期防除を実践しましょう。



アヒゲカメムシ



アカスジカメムシ

- 基本防除後に水田内のすくい取り調査を行い、発生が確認された場合には、「2回目防除の7～10日後」の追加防除を行いましょう。

いもち病は早期発見！早期防除！

- 葉いもちが発生したほ場では、治療効果のある薬剤（ブラシン剤、トライ剤、カスミン剤等）で防除を行いましょう。
※特別栽培の場合、使用できる農薬が生産計画で決まっているため、確認が必要
- 穂いもちの基本防除は「穂孕後期」と「穂揃期」の2回です。葉いもちの発生が多いほ場では、「穂揃期の7日後」にも防除を実施。
- 紋枯病は、穂孕後期と出穂期の2回、発病調査を行い、防除の要否を判断しましょう。
- 昨年、稲こうじ病の発生が見られたほ場では、出穂 20～10 日前に薬剤防除を行いましょう。



葉いもちの病斑

！農作業事故・熱中症に注意！
！山形県農薬危害防止運動実施中！

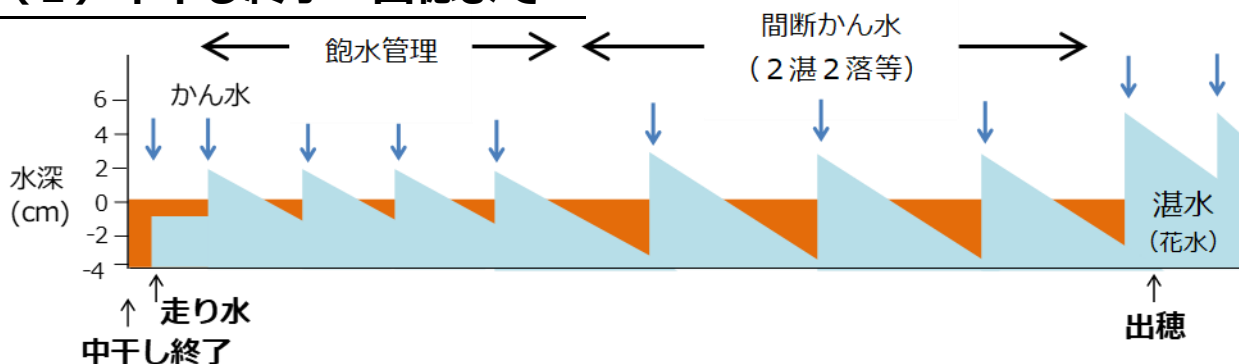
使い慣れている農薬でも、使用する前にその都度必ずラベルを確認し、希釈倍数等の使用基準や使用上の注意事項を遵守しましょう。



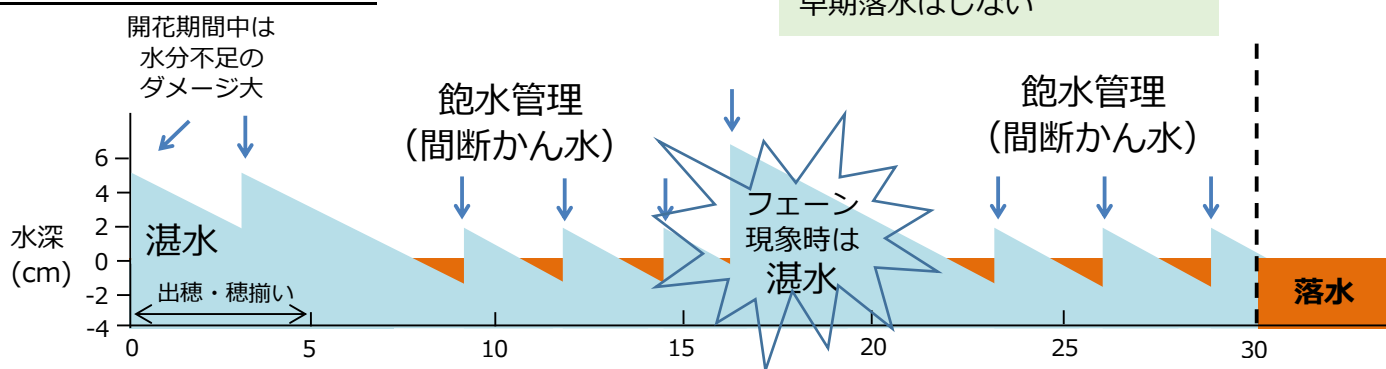
高温年の水管理のイメージ

水のためっぱなしはダメ！

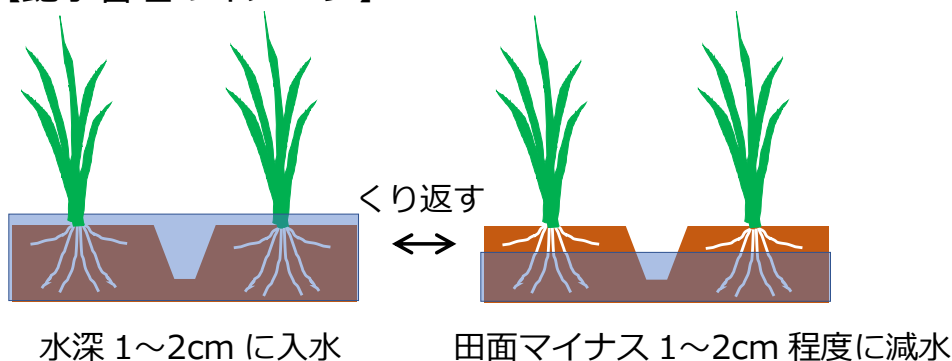
(1) 中干し終了～出穂まで



(2) 出穂期以降



【飽水管理のイメージ】



- 「飽水管理」とは、地表（田面）に水は無いが、くぼみには溜まっていて、土壌が常に湿潤状態に保たれている状態です。
- 湛水管理と比べて、夜の地温が 0.5℃程度低くなります。
- 土壌を酸化的に保つことができ、根の活力が維持されます。

6月下旬からの少雨の影響で、農業用ダム等の貯水率や河川の流量は低下しています。今後、用水不足が見込まれる地域では「番水」や「用水の循環利用」などの対策を検討しましょう。